

残留農薬検査(平成19年度10月～3月分)

残留農薬検査について

当所では、市内に流通する農作物や食肉等の食品に残留する農薬について検査を行っています。平成18年5月29日より、残留農薬等の規格基準についてポジティブリスト制度が施行されました。現在では有機リン系農薬、有機塩素系農薬、ピレスロイド系農薬及び有機窒素系農薬の約90項目について検査を行っています。

1 国内産農作物

食品専門監視班から平成19年10月、11月及び平成20年2月に搬入されたきゅうり、ごぼう、トマト、なす、ねぎ、ピーマン、みかん、いちご各3検体及びにんじん2検体の計26検体について残留農薬検査を行い、その結果を表に示しました。きゅうり、トマト、ねぎ、ピーマン、いちごからは各1検体から複数の農薬が検出されていますが、いずれも残留濃度は低いものが多く、残留基準値を超えるものはありませんでした。また、クロルフェナピルやクレソキシムメチルは複数の農作物から検出されており、よく使用されている農薬であると考えられました。

2 輸入農作物

食品専門監視班から平成20年2月に搬入されたパプリカ4検体について残留農薬検査を行い、その結果を表に示しました。パプリカ1検体からクロルフェナピル0.25ppm、テトラコナゾール0.50ppm、テブフェンピラド0.09ppmの3種の農薬が検出されましたが、残留基準値を超えるものはありませんでした。パプリカについては上半期(検査情報2007年11月号掲載)にも複数の農薬が検出されており、今後も調査を続けていく必要があると考えられます。

3 市内産野菜

横浜市内で生産されているいわゆる『横浜ブランド』農作物について、今年度は重点的に残留農薬検査を行いました。食品専門監視班から平成19年11月、12月及び平成20年1月に搬入された市内産野菜(こまつな4検体、かぶの葉、かぶの根、キャベツ、だいこんの根、にんじん、ねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう各3検体の計28検体)について検査を行った結果を表に示しました。その結果、いずれの農薬も検出されませんでした。

4 市民要望枠

横浜市においては、各区福祉保健センターがリスクコミュニケーションやアンケート調査等を行っており、それにより把握した市民からの要望を検査に反映させています。今年度はパン中の残留農薬についての検査要望がありました。パンの原料である小麦粉の多くは海外からの輸入品であり、その輸送中に使用するポストハーベスト農薬に市民の高い関心が集まっています。そこで、平成20年2月に食パンとその原料である小麦粉について検査を行いました。その結果、いずれの農薬も検出されませんでした。

表 残留農薬検査結果

(H19年10～H20年3月)

農作物	産地	検査 検体数	検出数	農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
国内産農作物						
きゅうり	国産	3	1	クロルフェナピル	0.02	1
			1	プロシミドン	0.07	5
ごぼう	国産	3	0			
トマト	国産	3	1	フルトラニル	0.05	2.0
			1	ペンコナゾール	0.01	0.2
なす	国産	3	1	ピリプロキシフェン	0.10	1
ねぎ	国産	3	1	フルトラニル	0.02	2.0
			1	クレソキシムメチル	0.05	2
ピーマン	国産	3	1	フェンプロパトリン	0.27	2
			1	クロルフェナピル	0.02	1
みかん	国産	3	1	クレソキシムメチル	0.02	2
いちご	国産	3	1	クレソキシムメチル	0.20	5
			1	マイクロブタニル	0.04	1.0
にんじん	国産	2	0			
輸入農産物						
パプリカ	韓国、ニュー ジーランド	4	1	クロルフェナピル	0.25	1
			1	テトラコナゾール	0.50	1
			1	テブフェンピラド	0.09	0.5
市内産野菜						
こまつな	横浜市	4	0			
かぶの葉	横浜市	3	0			
かぶの根	横浜市	3	0			
キャベツ	横浜市	3	0			
だいこんの根	横浜市	3	0			
にんじん	横浜市	3	0			
ねぎ	横浜市	3	0			
ブロッコリー	横浜市	3	0			
ほうれんそう	横浜市	3	0			
市民要望枠						
食パン	国産	1	0			
小麦粉	アメリカ	1	0			

【 微量汚染物担当 】